



## 別添1

### 2021年事業報告

#### 1. 総括

2020年3月のWHO世界保健機関のよるパンデミック宣言以降、未だに続く新型コロナ感染症による影響はあったものの、2020年より構築したZoomを活用したオンライン講習会、オンライン大会を数多く企画し、世界のAGGイベントに大きく貢献しました。

特に、コロナ禍から見出しZoomやKsisスコアリングを利用した新たな方式のオンライン大会の運営方法の構築は、国際AGG連盟IFAGG（以下、IFAGG）より好評価を受けました。その結果、国際AGG連盟IFAGG公認のオンライン大会として、2021年7月Monica AGGオンライン大会、2021年8月AGG樟蔭サマーカップ、2021年11月フジクララカップオンライン大会を開催いたしました。これらのオンライン大会には多くの国からチーム、審判員が参加し、IFAGGのAGG普及に大きく貢献することになりました。オンライン大会は、コロナ収束後も引き続き開催することにより、国際大会への参加が頻繁にはできない状況下にあるチームや年齢層、特にチルドレンカテゴリーの競技力向上に貢献することは明らかです。IFAGGは今後もオンライン大会開催を推奨することになりました。JFAGGは、引き続きオンライン大会開催に尽力していきます。

また、国内のAGG普及にもオンライン運営を大いに活用し、オンラインと現地によるハイブリット実技講習会の開催を複数回行いました。日本国内においても、引き続きオンラインの活用は必須です。今後ともものあらゆる方法でAGGの普及に貢献します。

#### 2. 国際審判講習会および国内審判講習会について

2021年は9月には、IFAGG国際審判講習会を東京で開催しました。国際審判講習会について日本からは10名が参加し、海外参加者はオンラインにて参加、現地と各国参加者を繋いで開催しました。IFAGGとしては初めてのオンラインによる国際審判講習会開催であり、IFAGGの新たな歴史的1歩にJFAGGは貢献することができました。

10月には、JFAGGとして初めての国内審判講習会を大阪で開催しました。14名が参加しました。2020年よりショートプログラムが本格的に導入され、日本でも多くのチームがショートプログラムに取り組んでいます。ショートプログラムは、AGGに新たに挑戦するチームのために導入されたプログラムで、AGG初心者には取り組みやすい内容になっており、ロングプログラムとはルールが異なります。そのため、国内で新たに審判資格を取得される方々にはショートプログラムの審判講習から受講し、規定のテストに合格して審判資格を取得いただきました。

#### 3. IFAGGB-カテゴリー競技会AGG Fuji KURARA Cup

静岡県富士市にて11月27～28日でAGG Fuji KURARA Cupを開催しました。JFAGGが一



一般社団法人として設立されて以降、初めての現地開催の大会でした。日本全国から24チームが参加しました。本来は、国際大会としての開催でしたが、コロナ禍での入国規制の緩和が進まず、海外チームはオンライン大会として31チームが参加し開催しました。

久しぶりの現地開催の大会ではありましたが、JFAGGでは1年前から準備を進め、大会を安全に滞りなく終了させることを念頭におき力を尽くしました。現地大会、オンライン大会とも無事終了することができ、すべての関係者の皆さまには感謝を申し上げます。今後さらなる努力をし、より良い現地大会の運営を目指して参ります。